

## あとがき

指導者や父兄、スカウト連の文章はすぐに読み、たのびに先陣  
 返還の文がなかなか送られてこず、割りつけず満足にてせ  
 ない。四回の「若いチーフ」のような文法なものを作ろうと  
 も、いま先文つものが十分におい。(予算総額 5000)  
 文筆も作ろうということになってから、わずかの日に日  
 数がたつ。編集者のあいている傾向がない、なび「ないない  
 づくし」のなかで作。たまたまこのようなものができてしまつた  
 。(このほかにも、二・三原稿があつたのだが、掲載すると具金  
 が足りないや、派手なものをのせるのをやめた。(申しわけない)  
 楠さんは、北海道大会(7.29~31)準備のため  
 長尾さんは、帰省して戻られて  
 林さんは、風邪で床についておられて  
 文をかける状態ではありませんでしたが、わざわざサンパチ  
 のため、ペンまで、てくださいました。皆さんと共に心か  
 ら感謝したいと思います。(オオキニ！)

ボーイスカウト 京都三十八団  
 創立五周年・年長隊発隊記念

# 激 流

非売品(うけないやう?)  
 100部限定版

昭和三十八年六月二十九日発行

発行人 小川 忠 謙  
京都府上京区南町通  
 錦町下ル254番 長徳寺

編集者 福井 和 雄  
 野村 昌 宏

印刷所 ニューハルス社  
 上記三名(一部)

# 激 流

BOYSCOUT 38

4周年・年長隊発隊記念号



自分の舟は 自分で漕げ  
 漕ぎ激れ 全力を盡して

市内 上京区寺町轉馬口下 長徳寺内

ボーイスカウト 京都38団

年 長 隊  
 少 年 少 隊

# もくじ

- 1 ま え が き  
記 念 写 真
- 2 年長隊略歴にあたって { 小川玄壽  
小野 基
- 3 シニアメンバー紹介
- 4 育成会の沿革 岸田久子
- 5 創立四周年おめでとう 林 秀博
- 6 略隊日に思う 寿田祐幸  
我が子の成長振りも省みて 野村幸子
- 7-8 創立四周年を迎える 橋野正彦談会  
四周年をいもう 橋 聖志
- 9 初めてのキャンプで学んだこと不吉平亮  
組長さまへ 野村基敏
- 10 アジアドジャムボリー日記 則田慶彦
- 11 僕のフトにっづけ 藤田伸一郎
- 12 何か以外何もなし 倉田敬明  
カブ 朝田 元, 巻近 寛
- 14 本題はマスケット 桂 直美
- 15 大文字ふいのぼーE 桂 栄広  
カブスカウトに入団させて 大島啓成
- 16-17 ほくのゆめ、ほくの希望
- 18-19 サンパ子の現状 中村 次, 橋本 子  
ワシ、コイ、マバツ、ライオン
- 20-22 団 名 簿
- 23 三十年6月21日 長尾純記
- 24 全 部 表 紙
- 25-26 権 記 録
- 27 組 織 図

# まえがき

早いもので、三十八田が出来てから四周年。

我々は段々と生長し、一周年が双葉に当たるなら今は前途洋々たる若い樹々、これから成長しようという生長期の樹々といえぬでしょう。

しかし、生長に苦勞はつきものです。年長隊は立派に出来たというものの、カブでは三組が、ボーイではライオン班がつかれてしまった今日、スカウトインズは依頼かも知れません。

けれど、我々は酒乗りましょう。伝統を築き、39団を立派にするのは我々以外の誰でもありません。三組を、ライオン班を復活させ、シニア隊を充実させ、展望、そして名実ともに日本一と云われる団にするためにも……。

四周年、年長隊希足に當って

ボーイスカウト京師三十八田 年少隊、少年隊、年長隊

## 記 念 写 真

# 年長隊発足にあたって

団長 小川 玄 彦

あの可愛かった Scout, P.T.A.の会が終りとなって入って来た Scout が、もうニギビ道となり、ヒケ道となって、どんどん伸びて、大人の仲間入をし、いつしか私を見下す様になった。(勿論私は背の低い方だが)早いものである。丸々年の月日はこんなに成長させてしまった。

その丸々の Scout 生活、Scout 一人一人に、どんな意味があったのであろうか?

Scout として走り、キャンプにハイクに訓練に、考えて見ると大変なことだった筈である。この間に離脱した Scout もある。その理由は如何にあれ、今日まで道をつらぬいて来た Scout 達が相寄り、こゝに年長隊の発足を見ようとしている。準備も Scout の手でやっていたので、嬉しい事といわねばならまい。

シニヤーとは、その Scout 一人一人が、その「誓」"おきて"の下に日々の生活の具体的に遭遇する色々な事象の上に Scouting することである。いかえれば「自由を知る」ことであり、自由を掴むことである。Scout の自由とは、真の独立者を意味する。

Scout のよさ、それは言葉に表せられないものがある。誰かが持っている、然も委付がないでいるもの。それは、心の奥深く秘む心の琴線にふれるものがあるからであろう。

本当に「やりがい」のあるものなら苦勞してもいい、舌や喉や腹や背を忘れて突破して行く。それが探達の心に通じ、私を動かす、私をつらぬかせるものがある。ここに人生の意味が凝縮づけられてくる。この道が Scout の道であり、この道に生き、活動が純く限り Scouting は魂の光を放つ。限られた紙面に意を尽すことは難しい。Scout せよ、そして真の独立者への道をひたむきに走れ!! 心と心の触れ合い、共に語り得る Scout 諸君に、君の人生の道を開拓し、365日の先導者としてこの道を開拓せよと願いつつ、

年長隊 水 野 彦

とこの国でも、国と名のつく以上その国の偉教である国歌や国歌、国民の愛国心や一致協力をとる何かがある。それが必要かつ欠くべからざるものであることは皆の疑うところでない。このような意味から考えても、このたび我々十余名が年長隊として一つの隊旗のもとに、十一の心を翼にせし一致協力してスカウ

ト活動を始めることは一つの小さな、いざある面においては大きな国、国家が出来たと云っても謙虚ではなからう。固なら国名を定め、国際連合へ加入し、他の国々と交々を結び、国内は国内でもその進歩を促し、ひたすら人類の目的とする道程の道程に努力を怠らぬように、僕達も無事子孫傳へるという名のもとに日本建國を希望を終え、友誼、全てのスカウトと交わりつつ進んでいこうと誓う。

昨年が月 我々はアジアジャンボリー終了後すぐに依の隊・班ではあったけれども活動を始めた。最初のうちはまだしも日かたつにつれて活動が下火になってきた。というのは、とかくむづかしいシニアの年令層のため、肉体的には大人の仲間に入った者と入らぬ者の個人差が、高校大学への入試勉強その程度がいことになるとクラブ活動・アルバイト・学業差……等ざりがない。

しかし皆が多様な生活を送っているからか、少ない集会の中でも皆が一同に集まった時には実に楽しい愉快なものがある。

この年月正式にスタートした時、活動内容に訓練はいうまでもないが、レコードコンサートがバリエーションを計画した。何故かという、少ない集会を充実した意義あるそして楽しいものにし、我々の人生にとって一番重大であり危険でもある時期、つまりシニアの年令の時期を乗りこえて行くのに要途と考えたからである。

#### 年 長 隊 の メ ン バ ー 紹 介

班長 岸田伸一郎 オッチマンのニックネームはネリにも有名、技能者十数人を有す、シニアのリーダー格。  
 文長 水野 孝 オッチマンのよき女房役、学業専らとったのが結果でジャンボリー卒業を一人をでている。  
 野村啓弘 スカウト正は百くツバメ班の班長とつとめていた、福井君と一緒に文集を作った一人。  
 福井田雄 切手集めと新聞作りがメシより好きでこの文集を作るため中心になって走りまわった男。  
 野本 明 頭にあるホクロをつないでいくとカシオペア型になる、ボーイとはワシ班以外知らない男。  
 前川 昇 キョウキョウの笑いはこの人のトレードマーク、学夜でサッカー部を作った人だとはりきっている。

小林達生 7日になると北台川へ引越す予定、タッチマン・タツのニックネームで皆に知られている。  
 末吉手之 (少年隊主理) ヒラカワ、カマドなどを作らせたらこの男の右に出るものはないだろうといわれている。  
 劇内要勇 (カマエシチーフ) いつもねむたそうな顔をしていてカマ指導にはもってこい? 最近大分お世話ようだ。  
 羽田 名 (カマエシチーフ) “ハッタン”がニックネーム、趣味で余りめだたないスカウトだがファイターでもある。  
 宮西敬輔 (林隊主) 大學生等のごしてカンパッている、本邦反戦の仏教者で得志は中絶時代よりアタ名はクダイラツ。

#### 育 成 会 の 五 星 霜

岸 田 久 子

発足以来五年目を迎え、月日のたつのを今更の様に感じます。発足当時を思い出すと“盲目猫におじま。のことわざの様に何事も無常な育成会でした。スカウトの人数が少すので会費全部が委員で集会も委員会も同様、チーフもなく、スカウト達の希望のカラーが決まり、いよいよ作の版になって会費がなく委員が立替えて生地を買いに行き自家製でミシンを踏んでチーフを縫えキー団のハイクに間に合せました。いよいよ発隊式になっても隊旗がなく、チーフの残り布を縫ぎ縫ぎして作ったもので少し細ったスカウト達のものぐの斜けた襟章を見る度に当惑を思い起してあります。

しかし全員が協同して色々な事をした為、スカウトも親達も本当の母子、兄弟の様な親しみのうちに不自由に覆けず、小川先生始め隊長日野さんの熱心な指導の下にスカウト活動を行い、暑々と3回目の基礎を作って参りました。すべれた諸君の入団で育成会も充実して参り、今迄の不慣れた事を検討して部費を定めました。一月前会費1000円、キャンプ費5000円、備品代1000円と入団費3000円で現在参っております。34年福田氏のキャンプは、テント一張り、鍋一つなく、能て本山の備品を借用した3回目の長期キャンプ

で、私達も名見亭に行き、必需品だけでも早く揃えてもらえばと話し合ったこととした。カマのテントメーカーのお母様方は、キャンプ中卒生で大変でした。其の年の下宿の森での京都キャンプには三々五々に食料運搬をやり、隊長からスカウトの訓練にならぬと、お叱責を蒙りました。36年神奈川のキャンプには備品も少しは増え、スカウト達の経験もあり充実した日々が送られたと聞いておりますが、やはり借り物キャンプで貧乏者の多い事でした。見学者もノケ名になり如何に大世帯になったかおわかりかと存じます。しかし未だ未だ備品不足が残り、早く何とか一人前の隊の陣容をととのえてと折々に話し合い、小川先生のお知恵も借り、テントだけでも何とかしなければと云っていた矢先、四回の委員の才の発案でアクセサリーの社事を始めました。スカウト諸君の皆々たる前途に花咲き匂う様に“ごさおう。会と命名して発足し、此の志に賛同してスカウトのお母様でない多くの委員の熱意の御好意で5万4千余の寄附をいただきました送るにテント購入も済み備品の充実を見ました。37年のアジアジャンボリーには荷物なしの自前のキャンプの出来た事を皆様に一緒に発表させていただきます。又年間に育成会に寄せられた有形無形の御援助に感謝しております。発足当時のスカウトも全部S.S.になり私

連初代の委員の任も終り、次代の委員の方々に、バトンと安心して交す事の出来ないので喜んでおります。お実状に充実した委員会に発展出来ます様願って止みません。一賞成興社 林 栄

### 創立四周年おめでとう

林 栄 様

3月4日、もう4才の誕生日を迎えるのですね。はんとつに早いものだと驚かされます。思えばいろいろなことがありましたね。楽しかったこと……苦しかったこと……今ではすべてが良い思い出として頭の中に浮んでは消え……まるで昔と今向い合って話しているような錯覚さえおぼえます。

夏期キャンプ、ハイキング、カフの諸君と私の車でゲームを楽しんだこと、又作車の夏のジャンボリー……それに間に合うよう、進級しようとして、何回も何回も進級試験をしたこと、紙上には書ききれないほどの多くの思い出があります。

諸君一人々々に多くの思い出があるものと思います。もう一度4年間の思い出を思い出して見て下さい、思わす一人ひとりに楽しくなっていくものではないですか？

そして吾達はこう思いませんか？スカウトになって良かった、3月4日に入隊して良かったと……。今 僕自身そう思っています。諸君と兄弟にな

れて良かったと……。

寂寥を離れてもう4ヶ月位たとうとしていますが、何か事が古巣を思しく思う如く、もう一度京都へ、と思うことが時々あります。

僕も出来たら、こちらにスカウトを作ろうと考えている所です。もし帰国する様なことがありましたら、よろしく……今から楽しみにしています。

四周年記念の式典が吾達自身のために有意義に行われます様、且つ、四周年をさっかけにより前進これんことを、竹の如く上へ上へとのみびらぬことを、心より念じます。

一日前の自分より一日後の自分が必ず前進しているよう、たとえ少しの休息が有ったとしても、次の前進へのエネルギーになるように。一賞 成興社

### 参加スカウト決定

— 全沢大会 —

来る八月二日より、全沢即長山公園で行われる全国青少年大会スカウトジャンボリーに参加するスカウトが次のように決まった。が多少の変動はあるかも知れない。

- 中村 武 (少年隊隊長)
- 木吉平克、福井和雄 (年長隊)
- 高橋 良、末吉邦康、末吉正巳
- 大塚俊一、野村健一 (少年隊)

× × ×

### 発隊日に思う

三十周年長隊々長 野 村 貞 子

3月4日のスカウト諸君へおめでとう……。少年隊の諸君が先陣四周年を迎えたとのこと、年長隊の諸君が先陣式を迎えたとのことの喜びは、君たちの胸いっぱいには広がっていることであらうと思います。

香ばしい日、記念すべき日、意義ある日……。スカウトにとっては、発隊日は確かにそんな日である。誰かが決めて持ってきたものでもない、同じ隊のスカウトたちがそう感じあえる日である。しかも、その日を迎える為には相当な時間を費し、相当な努力を費して準備をしなければならぬ。計画が決まってこそ作業にかかってみると、楽しいと思うことよりも、嫌だと思ふこと、辛いと思うことの方が多い、何々途中で投げ出してしまいたいと思うこともある。そんな時にも目を向けるのは友の姿である。友は懸命に作業を進めている。その姿を見た時、再び自分に作業を続ける勇気が湧いて来る。私もどろねばと思う。そして作業が続けられていく。このようなことが何度も繰り返されて先陣日を迎える。荘厳な式が始まると、これまでの準備の苦労が忘れられ、ただ感激で胸がいっぱいになる。式が終わっても暫くは興奮は覚めないが、よじけるさっさと体に力が湧いてくるのを感じる。友の目からもそのような表情がうかがえた。

私が全沢にいた頃体験した先陣式当時のことを思い出してみるとそのようであったことを思い出します。

同じ隊のスカウトを本当の友として身近かに感じたのはその時であった。それはさっと先陣日という日を意義ある日としたい、前進を輝かしいものにするための立派な出発点としたいと願いながら、時折くじけそうになる私の心を、友は勇気づけ励ましてくれ、頼りを實現する力を呼び起してくれたからであるに違いない。

### 我が子の成長振りを省みて

野 村 貞 子

四年前の丁度今頃、可愛いお胸の服を着、兜からにめどけな小旗をした十余名のカフ坊が元気な声のよい生声をあげました。そして子供達もお母様達も、元氣溢れと新しい希望に燃え、度々指導者のもとに一歩々々前進し、やがてよりよき坊が出現、片言が話せるようになりました。でもこのまどが大変、気のついた時は、出発当時より大分飛んでおりました。真一一人のカフの子も何度か逃げ

出そうと考まていました。でも今へたなっでは生れた甲斐がありません。一本の苗木が大木に育つまでは、嵐に会い根を叩こぶられ枯れそうになり何年もの間かかってやっと一本の木になるのです。だんだんにこんな話もわかってきて、どがて此の間もカブスカウト3年になり、一番古だぬきになりますと、今度は後輩に良いところを見せなくてはなりません。自然とファイトが湧いて来て集会も楽しくなりました。そして間もなく数々の思い出を後に譲れて待望のボーイスカウト初級になる事が出来ました。が、又この六年生の春を迎え次々と園を去られる旧友に、ぞ、もすると心が乱れ掛けるようになりました。

しかし今は違います。身心共に感激に成長し中学生となりました今日此の頃はスカウト訓練が楽しくて仕舞がないようです。二級になれる日も間もないことでしょう。小こかったカブの子もどうやらスカウトの長さがわかりかけて来ました。どうぞ此の苗木がすくすく育ちましていつの日か、堂々たる大木になりますように願って止みません。

赤 栄

零くの試練を乗り越え

## 創立四周年を迎える!!

— 二年越しの念願 年長隊も発足 —

発足以来四年。これはある日、あるところある人達が女年の思い出をし、べった、今実行の無責任な態度である。

- A. 3の団として発足するまでが長かったようだな。
- B. うん、僕も元々一番初めから入隊しているがね、誰もスカウトになりたいという人がないし……。そのうちにカブ隊が先に発足してしまった。
- A. 3の団として活動し始めたもののローパス(現大百大ローパス)との調整がうまくいかずに困った事もあったな。
- B. 結局初めから完成団体は別々だし、うまくいくはずがなかったんだよ。

昭和35年

- A. 和田でのキャンプは色々の思い出一杯だね。
- B. あの時、指導者は近藤さんとアキラちゃんの人で、荷物をかついでくれたりしてボーイ不足だったし……(笑)
- A. 今、どこかの団の団長をしているA君やB君は和田隊を出るとすぐに辞めてしまったね、あの時のしんとそうな顔、おすれられんわ (笑)

- A. その年の京都キャンボリーに初参加して、大活躍したのも楽しい思い出。
- B. そうだね。

昭和36年

- A. 和田キャンプの後、近藤さんから長尾さんに隊長が交って、スカウト教も入ってきた。
- B. 神戸での隊キャンプは今までのなかで一番、サシバチが充満していた時に行なわれた。
- A. けれど、ライオン班が女らしき参加者がいなかったのは惜しかったです。
- B. フロテラムがさちゃんとしていたから、余り泳ぐことができなかったよ、残念だ……。
- A. 和田ではクラケに悩まされた。
- B. 今は神崎の沼したよ、マヌケ (笑)
- A. 次ノノ京都市キャンボリーのグリーンライン電車、の仮装行列はうけた。グッドアイデアだったが、四位とは……。
- B. 審査員はどうかしていたよ(笑) 次頁へ

四周年をいろう

橋 淑生

昭和36年6月21日、現在の3の団の母体である3の団少年隊が発足して以来、はや4年の年目があった。まことに日々のたつのは早いものである。思えばわずか十有余人の少年が立派な少年になるようにとの多くの人々の願いのもと、長休身においてテンメジャーを中心にロビントを始めた。これが3の団の始まりであった。以来4年、歩みを止めることなく一歩々々着実に前進し、この間3年5月/日/4日には少年隊が創設され、又こんと年長隊の結成をみるに及んだことは、誠によろこばしく、同時に心強く感ぜられてならない。

私が諸君と共に歩んだのは僅か一年だった。退団して北海道へ帰りに創設した紋別3の団も来る9日には3周年をむかえる。幸い、昨夏のジャボリーで再会の機会をえて、かつてのカブはボーイとなり、ボーイはシニアへ上進したその成長振りは目をみはるものがあった。これは小川先生を渡英とした正代のリーダー諸氏の功績があろう。しかし今日の3の団の姿をき守りたのはスカウト諸君のたゆまざる精進の結実であり、心から敬意を捧げると同時に赤栄を送ります。

(1963年6月15日)

### 神崎キメンアの歌

(うさぎおひしのメロディで)

1. ともにいだし ぬの森  
歌ひあひし この歌  
思ひは今も 新たなり  
忘れがたき 神崎
2. みかさあひし 夜が枝  
ぬしあひし 夜が道  
思ひは今も 新たなり  
忘れがたき 神崎
3. 星はめぐり 我年  
いかにいます 同期  
思ひは今も 新たなり  
忘れがたき 神崎

オカス。僕達の陣ではめた「隊長さま」  
まゝ」という珍妙な言葉などを結構  
楽しかった。それに工夫をこらした水  
箱、テント内の高所運場、入口のレ  
ンなどをケツサクだった。

……というわけで神崎のキメンアは  
一生忘れられぬだろう。

(当時強班所長)

### アジア・ジャンボリー日記

副内 夏 彦

6月2日、僕はジャンボリーに参加  
すべく弟と二人で、夜中二時前も先  
発隊を待っていた。午前三時、先発隊  
と一隊会場へ、六時半に到着。朝

のフジは美しく、目前にせまってくる。整地に苦勞する。

3日、朝から風がいたって激しく、設営困難。この日一日中、日光に身をこら  
したため全身これ要素。熱が出。ぶったおれぬ。「あ、どうしよう。体中がいた  
い。死にそうだ。たすけてくれ。」

4日、朝、風もなく夜七時に起床す。体がまだ痛い。キレク油を塗り、体い  
ち面塗り白け。

5日、体の痛みは大分よくなる。誰か「フランケンシュタイン」と命名したら  
しい。

6日、日焼けのおとに水ぶくれが出はじめる。

7日、かくて水ぶくれ絶頂部に達す。

8日、皮膚が破れたす。かくて、ジャンボリーは終わった。



### 一ハマスサスカウト一

#### 僕のアトにつづけ

ベネサス班所長 岸田伸一 著

「ウッファー、一級スカウトだ」と、あこがれと尊敬の目を見張り「自分もか  
ならずあの一級章を胸につけるさ」とちかめてから満耳耳。僕はそれをとおりこし  
て準スカウトになった。

ある面では僕は、たいへん幸運なスカウトだといふことが出来る。一つには小  
川先生という良き指導者に恵まれたこと、二つには国創立時より入隊し、いつも  
隊のペースメーカーになっていたこと、三つには良きライバルがいて、つねに助  
け合って進級出来たこと、この三つのうちのどれ一つかけていても僕は準になる  
ことができなかったらう。その高実力があって努力しても進級できなかった人  
達を非常に気の毒に思う。

「幸、現在このスカウト章を胸につけていゝのは僕一人だけ(京都で)である。  
それゆえに僕は怒りし、僕は事の運格があり実力があるだろうか? はずかし  
いが、僕には百発百中での点、各クク点もないだろう。しかし自分なりに出来  
るだけの努力はしたつもりだ。モールスにおいでもどうせ倍写章をとるならば  
かしくない倍写章をとろうと、夜毎がまじまじと鏡を凝視してトットトツ  
トと一生懸命に練習してどうとう一分間に60点打てるようになった。しかし  
とえ実力があっても不要は消えなれど思う。なぜなら一級や前とちがは自分の  
準にはないからだ。富士にたればもっともっとそれからはけしくなるにちがいない。  
いつも「自分は富士スカウトだ」という自覚にたつてものごとを行ない、つ  
ねにリッぽな気取った富士スカウトになるために努力をしてゆかおぼならぬと  
思うがらた。それだからこそ僕は富士スカウトになりたい。京都で最初の富士ス  
カウトになりたれのだ。むかには「なんでそんなにつらい目をして進級しなけれ  
ばならぬのだ。一級や二級でとどまっておいたら来ていいではないか」と云う  
言があるにちがいない。その言はかんたんである。僕はこう答えるであろう。「  
自分はスカウトである。ゆえにいつし次の級に向って訓練をのりこえバクシン  
してゆくのだ」と。

人間は創意工夫をしつゝ進歩を望みそれを試みるがゆえに今日の文化を生み  
出したのである。

進歩をしない人間、進歩しようと試み障害をのりこえてゆかない人間は人間で

名刺について

- A. 毎年、名譽奉仕にスカウトを奉迎させているが、この方で話しはなにか。
- B. 地元というせいもあるだろうが、入道者になっているネ、今でも手紙が来て文通している人もあつたらしい。
- A. ことばがはつきりしないので北海道と九州のスカウトの通訳をしたよ、僕は。(笑)

ジャンボリー

- A. アイパノの日本ジャンボリーは電撃だけだったの、アジアジャンボリーは初本知でもあり、大々騒動したネ。
- B. 両会式、両会式は胸にジーンときたのをおぼえている。
- A. 懐かしの顔を久しぶりに見られたし……。
- B. ガールスカウトの顔を見ると、うれしかった。(笑)
- A. ナンデ?
- B. 女の顔が少なかったし……。
- A. そひゆりマジについて……の歌は絶対に忘れないわ。

現状について

- A. ライオン隊かつたのは嬉しいよ、なんどかもう一度参観してもらいたいわね。
- B. カズと甘三組もネ。
- A. さいわい、今の隊長は悲心な人ばかりだ、大丈夫だろう。(笑)
- A. 昔年頃、何だかあつてないみたいだネ。
- B. うん、しかし、スカウティングはここからだ。
- A. 小川先生を始め、かえって日本一の団にしようよ。
- B. ではこのへんで。

初めてのキャンプで学んだこと

少年隊上級 末吉 平 亮

団が結成されてから約ノゲの日、メットク年の立札に当番しました。まだまだ若い。しかし、うれしいではないか。そこで今は過去となったことを一つ……。思えば甲斐一年の時事にはなりますが、私の野営生活の出発点は、若狭湾初野キャンプより始まります。キャンプに行つて一番思い出となるのは……

「水くみ訓練がつらかったこと？」

「キャンプファイヤー？」

思い出の人はキャンプのことをいろいろこのように聞きます。けれども私はちがいます。初野キャンプの思い出は沢山あつたんですが、一番大事で首を痛めてから聴いた事があります。

それは明るい夜灯の下、よくゴッゴツしないふとん、水道やカスガ炭を、新聞ラジオ・テレビが楽しめることなど文明のりきを換用出来ないことに喜びを感じたことです。これはホームシックなどと言うものからおよそかけ離れたものであつて「この文明のりきを換えると、この高麗の歌謡が一番の思い出となったのです。今でも私はキャンプから帰るたびに文明が飛躍しここに存在することを身体で直感味あうのです。そしてこれはスカウトがもっている情緒だと思つたのです。

「班長さまあー」

野村 昌 宏

ぼくにとっては、今までで最も楽しく、かつ、最も印象的だったキャンプの一つに神崎のキャンプがある。

若狭湾内の入江に囲まれ松林の中に、ある眺望のよい神崎キャンプ地。右手には河川立った絶壁、荒々に荒々しく露出した岩肌を見せ、左手にはゆやゆかに海響した海岸線が延く。ぼくは陣組に続いてなだらかなスロープをもつていふふと、涼風と山の空気がミックスされたこの場所、全く申し分のない景色ではあるがたまたま森だつたのは……。

一日日本雨が降すぎまで降りていたが、ここで旅路というときになって急に差風な雨と風が吹いて来た。台風予報が近づいて来たのである。僕はその甲斐テントをたてフライをはり荷物を選んだ。そのときは水パン一つになってテントの支柱をしっかりとに掛け又やめらるかに砂地の上にペグを打ちこんでいた。そのときの気持？ ととても細かかつた。これでテントが立つのかどうか？ ……体は雨と風でカタカタ震え、唇はどの程度も凍青だつた。夕方になつて雨もやみどら夕衣にあつた。この日からほとんど波が荒く積れた日も少なかったが、このときのワン班のチームワークのよさと食糧の豊富さ？ 音楽メシ、こぼつた

和 田 キ ャ ン プ の 歌

ノ ル タ デ ル タ カ シ オ ペ ヲ  
 ア ツ キ の 様 な ト シ ュ ウ コ オ  
 ゴ カ ク の ベ ー ス に ラ ビ ッ ト  
 ヲ ト ス タ ホ ス タ ガ ス タ ン ク  
 中 ス タ オ メ メ に タ イ ス ツ ヲ  
 ジ ャ ッ チ ョ ン タ ク テ ン ア セ モ ヤ ン

作 詞 者 不 明

「そたてはけか」のメロディー  
 で歌うこと。

誰が誰かわかるでしょうナ。

なく又頭のスカウトでもないのではないが、

僕はいつのまにかこういう考えを持って来た。小川先生や日野元隊長の教を  
聞いてきた五年の間に。

カンパキのスカウトよ、僕の後に続け、僕をおいこせ！ 全員が百回のスカウ  
ト章をつけろ！

— 仏教章奪一奪 —

### 努力以外何もなし

宮 面 敬 期

僕が仏教章を獲得したのは昨年の夏でした。実力のない獲得だったけれど、  
僕自身獲章される事を小川先生から聞いて、大変喜んでました。この獲章は  
小川先生の並々ならぬ御尽力に依るものでした。僕が真実に関心をおぼえたのは  
オロ回名譽奉仕訓練に参加した時でした。そしてその時に小川先生から仏教章に  
ついての話を聞いたのです。その時は、なんとしてでも仏教章を獲得せねばと  
思ったのです。オロ回名譽奉仕訓練に班員で、同じくオロ回に上級班長として参  
加しました。その時に真実との結び付きが益々強くなったのです。その間に仏教  
章が具休化されました。仏教章での一番の難題は、報恩感謝の生活への実践とい  
う事でした。これには僕も全く自信がもてなかったのです。僕はこの難を突破す  
る為色々考えました。その結果、結局努力するより他に何もなしという結論に  
達したのです。それでも、どうにかこうにか仏教章を授与されたのです。しかし  
僕がこれらまでは獲得する事に一生懸命だったのですが、いざ授与されると、今  
後どうしたらよいのか心配になって来たのです。つまり仏教章を得たという地位  
をいかに保持するかが重大な問題だったのです。僕はこれまでの隊長だけの主  
張を徐々に改善する事によってこの地位を保持し、さらにいっそう高めようと思  
ったのです。そして今後ボーイスカウトの中からどんどん真実章を獲得する者か  
出る事を祈ってやみません。

### (カフ)

カフ感

羽 田 亮

十余名のスカウト、二人のデンチーフ、これに隊長に副長。これが我が子団  
年少隊のメンバーである。

僕が羽田君と共にデンチーフになって一年余り、今振り返って見ると色々なこ  
とがあった。スカウトが三名でデンチーフ二名、その兩名がカフに未経験といっ  
ていいほどであった横や、カフラリーに参加して非常にとまどわれたこともあ  
った。今はもう隊長や副長がおられるので安心だが、その頃は最近でほとん  
ど存在しないのと同様だった。

また僕一人で雪中ハイイクにつれて行ったことも、ソフトボール大会に出場して  
の対ノグという見事な成績でやぶれたこともあった。以前には優勝したこともあ  
ったようであるが、これを見てもあまり活発じゃなかったようである。しかしこ  
れは隊長も、もちろん副長もおられなかった頃のことである。今ではカフスカウ  
ト活動以前と比べてだいぶ熱がはいってきている。僕自身はカフといっしょに  
いるとどうも精神的により疲れるようである。ちょっと目を離すと悪新僕ハグの  
ようにどこかへ行ってしまう。悪戯をしている。その上叱っても叱り甲斐がない。口で  
集合通知をしても、後で電話、まあこれはしかたがないことであるが、しかしカ  
フといっしょにいると楽しい。ひねたやつら？とつさあうのとまた違うおもしろ  
みがある。今日の集合で愛画をかかせたが、なかなかおもしろい。ハグにまかせ  
たことが書いてあることもある。

今日になって数人の隊員が欠けたようである。少数であるが隊長、副長もおら  
れる今、全員が努力してボーイメシニアにまけない隊となることを確信する。

### カフ隊々長として感じたこと

栗野 三子 団年少隊々長 春 近 寛

隊長とよばれ、カンパキと呼ばれるようになって半年、以前おめようとして進  
んで来た道——これは約年達への指導だった事は、まったく疑問もないことなの  
だが——それだけ、カフの隊長と云う任務が私にとって重荷なものであり犯しが  
たいものであったことは云うまでもない。

今までの半年を振り返ってみると、それが善巧な川、横足もしないで進んで来  
た馬車の馬のようであった事は、大いに  
反省すべき点があります。けれど私が本  
当に真剣な事を以てやっ来て来た事は、  
はつきり云う事が出来ます。「カフ」と  
云う程々な出っ張った舌に度度か足を打  
ち、なんとか入口へ入り込んだ私です。

副長さま  
去る五日、カフ隊に新しく秋月戦子  
さんを副長にお迎えした。秋月さんは  
金澤市出身で大谷大塚短期部一回生  
で大谷ローバーズの一員でもある。

この登山経験は、これからの私のカピシタのため、東進らしき足場となるだろう  
と想っています。これからの登山は長装で続いで、歩いていくのに「人間か人間  
あるように」という言葉をモットーに行きたいと思っています。

さらに三ノ田の少年隊としては人数の面に少し支障をきたしているので少し考  
えてみたい。

又出来るならば少年隊の財政面の手算なども組んでカピシタが再選になるよ  
うにしたいと思っています。

## 二 節

団創立四周年並びに年長隊発足おめでとうとございます。

このたびは三ノ田カフスカウト隊のお手伝いに参加しました秋月様です。皆さんが、  
お前らから貴重なカフスカウトになっていただけよう一生懸命努力した  
と思っています。カフスカウトのみなさんと一日も早く、心からのお友達  
になりたいと思っています。未知な者ですが、これからよろしくお願ひいた  
します。

秋 葉

昭和30年6月16日

年少隊長 秋 月 典 子

## 永遠なるスカウト

社 政 魁

私は少年の頃、ボーイスカウトに対して一つの理想をも似た希望を懸けていた。  
その頃の私は日本の統制管理の中にあつた。私が父を亡くして逆境の立場にな  
って孤独を感じているとき、入団出来なかつたボーイスカウトは、いつか、さび  
しさを癒し、慰めをあたへることを持つて私の心の中を左右していた。私自身に見え  
ないけれども、かたはみかれて足を踏み出したとき、ボーイスカウトに対する希望は、  
やがて日本に希望という心の裡になって実を結んだ。私の少年の小さな夢から未  
知の国への果しない大きな夢をいごない。それから何年かたって希望を持ち、子  
供がボーイスカウトに入団している現在、私はいつもボーイスカウトから始つて  
願ひに、ときおり自分をフとゆだねてゐることを私は決して私の甘さなどとは考  
えてはいない。小川先生降下諸先輩にツマク願ひのために、つさるごとの努力の未  
達にして大けなるスカウトの仕事に役立つことを願つて止まない。

大しんじ山にのぼった

社 政 魁

雨かふるかなと しんじ山にのぼった

よい天気

ほく はじめて大しんじ山にのぼった

よいしょ よいしょ みんなで登る

あせが出た

くっせえについで うれしかった

風かふいた よい天気

けしきもきれい

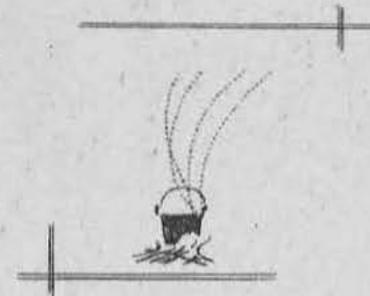
かえりは さかみち さっさと下りる

山はしんじ山と すきになった。

## カフスカウトに入団させて 大 崎 徳 蔵

私はボーイスカウトをよく知らない。「ウソをつかないこと」「人に親切に  
すること」などをたたくさんの決まりがあるらしく、こうした決まりがしっかり身  
についていないとボーイスカウトにカナから上らしてもらえないらしい。

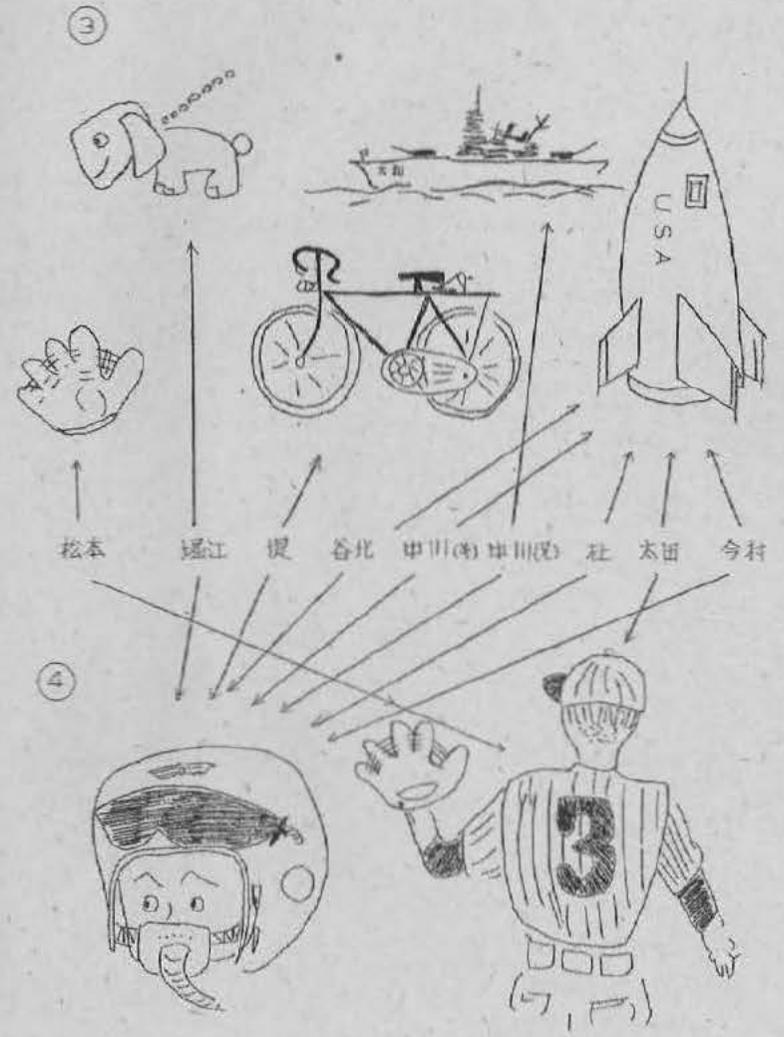
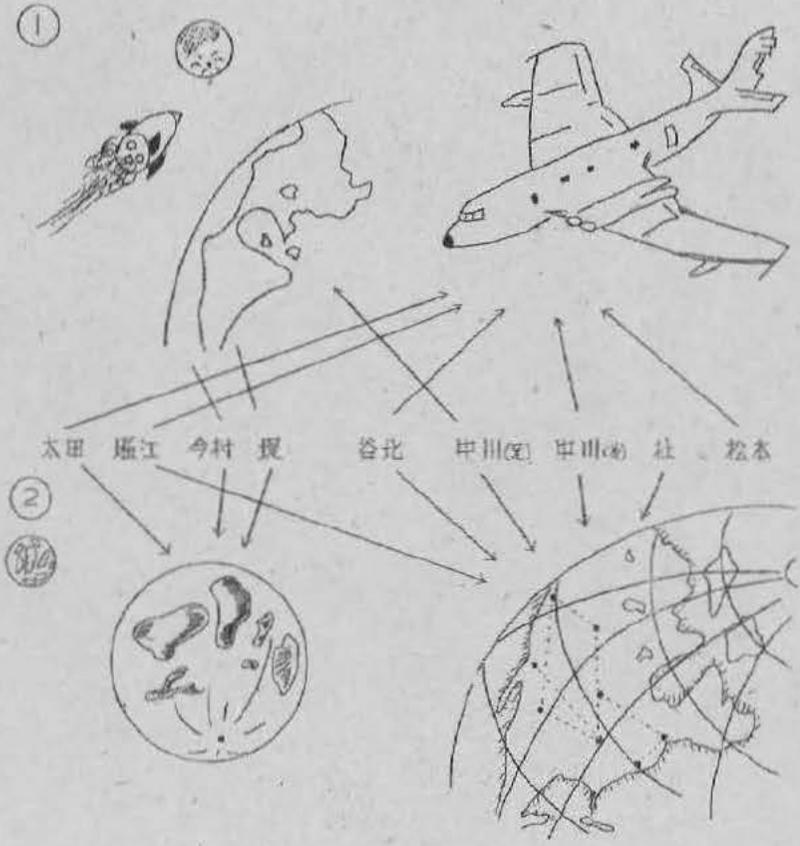
長男は話にあわせてん坊で自分本位の利己主義者で恥しかりや、体質は大丈夫が  
十でである。加味と漬物を間違えて八十銭高をもらつたり、問題をとばして、全  
部出来たとすましていふ子供である。「よく出来るのにあつて、機をえています  
ね」と拒否の生もためいさをつけている。ボーイスカウトとハロー一つの東国を  
通じてそんなクセが一つでもよくなつたら——というのが入団させた親の考えで  
ある。



ぼくの夢、ぼくの希望

カフスカウトの夢

- 問 ① 今一番来りたいものは？  
 ② 今一番行きたい所は？  
 ③ 今一番ほしいものは？  
 ④ 将来何になりたいか？



# サンパチの現状

## (ホーイ) より立派な隊を

少年隊隊長 中村 武

隊長に就任してから、未だ日が浅く母とんを美学的な香がわかってはいませんが私は生憎なようですけれど決していい隊であるとは思いません。その原因にはしばらく隊長がいなかったこと、手取義の決定に伴うい中心に専ら活動していたものが抜けたため隊のまとまりがなくなり、パトロールシステムが完全でないということが考えられます。

このパトロールシステムが完全でないということは、基礎となる鉄骨がなビルディングと一緒です。だから、この意味の面はパトロールシステムの進化を現実的に進めて行くつもりです。勿論、これにもいろいろの方策があるでしょうが私はカリンバー訓練による方策をとりたいと思えます。

カリンバーへの集中的な訓練によって隊長に班長の、次長に次長の重要性をうえつけ、専任態をもち、より立派な隊を作り上げていく考えです。

本日はここに隊長が正式に充てられ、活動を再開するわけですが、これからは、少年隊への訓練にも参加して、カリンバーをいれ、それによってスムーズにプログラムが進められるように念じています。

**ワシ** 鷹班はサンパチを登ると共に誕生した伝統ある班である。班長も山田・野本・水島・高橋と代々鷹班生えぬきのスカウトでしめているのは量産十分。アジアジアンボリー以後、最近まで以前の陣営取りに比べて傾が欠けるものがあったが最近またまたまとりかえしてきたのも伝統の力というべきだろう。

「鷹班は他の班に比べて初級スカウトが多く、道徳状態が他の班に比べて遅いのが特徴か」と班長高橋の長キマンはいう。「また全部がたらたらしてい



る」らしいが、「チームワークはサンパチ一だ」とのこと。

次長の長キマンは、からたかてく林隊中での三番スカウトのテラコーことき島君が次長の役をつとめている。野村、大長、古川とカサからの出身番の多いのも大きな番長。



**コイ** コイ班は一回隊キマンの族、水野君を隊長にして誕生した。以来、水野・三宅・土田とつづいていながら、この班は何かチームワークに欠けている面があるように思われる。

昨夏のアジアジアンボリーのガマド机・イス類はすべてコイ班の製作によるものである。

**ツバメ** ツバメ班は、もっとも新しい班で第二団隊長期野島が終ったアト、36年7月に充てられた。野村富太郎が当時の班長で、トシユウ・ヨウこと東秀平君が二代目にあたる。



「訓練中難関が多く電線してさぬいでのなのが現在の状態」だとアーキマンはいうが、今の班長中野一人の名誉を訓練参加者のアーキマンを中心にカリンバー、アーキマンらが協力してカンバってほしいものだ。

カリンバー(水野正吉君一隊長)はホーイ隊の中で技能者を有している一人で、次の班長とされている。メカネをかけてから、ヒドリカオ?がモチーフになったとは筆者の語。

**ライオン** 班は去る三日、飛合併のおおりにくって充てられ、つづいてきた歴史に、一たんおし止りを打ってしまった。

よっちゃんこと野内盛君が初代班長で、藤川博君、上田正三君とつづいていた。この班はあらゆる面においてよっちゃんの隊長ができていて、鷹班の勢に比べて静、積極性に対して消極だったが他の班にみられぬい象徴的なフレイキをもっていたようだ。

ヨッちゃん、ハッタン、ピラカツ。

今コイ班は陣り、舟にたたされていもようだ。「お母君はハッタン三人で何もできなかった」と班長はボヤいている。事実この班の歴史はアラブ活動に集中してスカウティングをおろそかにしていた人もいようだがキマンを目前にこのコイ班精神を再びみせてほしいものだ。



アセモ、それに野村などのSS達はこの班の生えぬき連で「まだライオン班の灯が燃えず」の感がある。

再びライオン班が模索するよう、ファイト。



# 団名簿

(38年6月10日現在による)

団本部 東京都東部市上野区寺街通寢馬口下レ高 寺前348番地  
 夜休寺内 TEL.(23)3645番

## 団委員会

団委員長	小川 玄 諭	団本部に同じ	
副委員長	岸田 紳一郎	上野区	644
	野村 晋 忠	"	74
	水野 冬 彦	北区	
	末吉 平 克	"	303
	福井 春 彦	"	191
	栗 忠 英	"	113
	高橋 小 春	"	702
	泉 牙 子	"	



## 隊長隊 (Senior Scout Troop)

隊長	小川 玄 諭	団本部に同じ
副隊長	岸田 紳一郎	19年 上野区上野寢馬場街373 (31)6444
次長	水野 冬 彦	19年 北区
	野村 晋 忠	15年 一級
	福井 和 雄	14年 一級
	野本 昭	15年 二級
	小林 達 生	14年 二級
	前川 翠	16年 二級
	宮西 政 明	19年 到
	別内 愛 為	16年 一級
	羽田 光	16年 一級
	末吉 平 克	16年 一級

## 少年隊 (Boy Scout Troop)

隊長	中村 武 21年	下野区
----	----------	-----

上級班長 末吉 平 克 記入済

班長	高橋 俊 14年 二級	上
次長(休)	小島 泰 夫 14年 二級	
次長代理	寺島 清 14年 二級	
	野村 浩 一 13年 初級	左
	古川 純一郎 13年 初級	上
	大坂 俊 一 12年 初級	左
	山村 博 徳 11年 初級	上
	八束 敦 11年 初級	
班長	上野 正 三 14年 二級	
次長	三宅 憲 徳 14年 二級	
	末吉 邦 慶 13年 二級	
	中島 幸 造 13年 二級	北
	河村 和 徳 13年 二級	上
	八束 裕 12年 初級	
	中川 正 博 13年 初級	北
班長	栗 秀 章 14年 二級	上
次長	水野 正 己 13年 二級	北
	山元 博 友 14年 二級	
	栗島 和 雄 12年 二級	上
	堀 元 平 司 13年 二級	北
	中島 仁 司 12年 二級	

## 年少隊 (Cub Scout Troop)

隊長	春 正 寛 20年	上
副隊長	秋 百 英 彦 19年	北
デスクーフ	別内 隆 彦	記
	羽 田 光	記
一組長	堀 利 樹 11年 1人	左
	中川 良 一 9年 3人	
	林 泰 弘 9年 3人	

谷	北	渡	澄	9才	2才	左
中	川	武	久			
二組々長	大	田	繁	10才	1才	上
	今	村	寛	9才	5才	
	松	本	廣	9才	3才	北
	山	本	直	8才		

元隊長 (Old Scout)

橋	友	生	(元年長隊長)
日	野	風	昭 (元少年隊長)
長	尾	紘	紀 ( " )
林	憲	彦	(前少年隊長)

追加

カブ隊	瓶	江	洋	上
	大	高	正	橋
	赤	坂		
ホーイ隊	野	崎	正	和 飯入 北
	田	中	英	左
団委員	辻	政	憲	左
	今	村	眞	子 上
	中	川	み	どり 左



34年6月21日

この日が、38ヶ国が世界のスカウトの仲間入りをしたうれしい日でありましたね。わずか11名のスカウトで発足した38回も年長隊ができるまでに成長したことは非常にうれしいことでもあります。ではこの38回のエピソードのようにできたかもう一度発足するまでのあしあとをたどってみましょう。

第1回 集会 4月11日 仮入隊員 7名  
 第2回 集会 4月18日 11名  
 第3回 集会 4月25日 11名  
 第4回 集会 4月29日 (CS最初のピクニック(杖敷部))

そして5月4日最初の育成会があり色々語りあいました。このようにスカウト11名、2組でもって隊が発足したのでした。

この時のスカウトも皆ボーイに上進のことと思いますが、おそらくこの時のことは忘れないことと思います。今東京67団に所属しておりますが、やはり38回スカウトがなつかしく思います。

キャンプ、キマンボリー、ジャンボリーと経験を重ねるごとに、立派なスカウトに成長していく君達は、どの少年達よりも幸せであります。又君達の成長が一番喜んでいるのは、わずか11名のスカウトから今日の年長隊が結成されるまでに、手となり足となりとなって協力してくださった団委員長や育成会の皆々まであらうと思います。君達も4周年なら、僕にとっても4周年。今後も38回と共にスカウトの道を歩むことでしょう。

弥 栄

38回 年少隊 二代目隊長 長尾 紘 紀  
 少年隊

# 38年度会計中間報告 (37.P~38.6.10)

## 1) 育友会々費内訳

収入の部		支出の部	
前算より繰越	4,091	本部事務費	2,990
育友会々費	24,600	親睦遊歩費	1,000
八束器入金	300	御禮券代	1,000
		少年会誌費	3,800
		追加	2,600
		4-7代立替	6,600
		4団八団様代	600
計	28,991	計	18,590
		差引残高	10,401

## 2) キャンプ備立内訳

収入 ¥ 24,300 で支出なし 現在高 ¥ 24,300-

## 3) 備品備立内訳

収入の部		支出の部	
前算より繰越	2,600	天器代	41,600
備立金	24,300		
"さきよう会"寄付	13,000		
天器代寄付金	6,000		
計	45,900	計	41,600
		差引残金	4,300

育友会費・キャンプ備立・備品代 ¥100 計 300 を系納しておられる方はなるべく早めにお納め下さいますようお願い申し上げます。(金計 束)

## メンバーシップ

本年度は、三月に年長・少年・年少各隊とも登録を完了した。

登録時のスカウト数(カッコ内指導者)			現在のスカウト数	
年長隊	14名	(1名)	12名	(1名)
少年隊	24名	(2名)	23名	(1名)
年少隊	9名	(1名)	14名	(2名)

## 進歩

年長隊		少年隊		年少隊	
準	2名	頭	なし	月の輪	なし
頭	1名	一般		くま	
一般	5名	二級	14名	しか	2名
二級	3名	初級	7名	うさぎ	5名
初級	なし	仮入隊	1名	1) す	5名

・ほとんどのスカウトが年功章をもらっている。

・技能章獲得者

孝田伸一郎 末吉平克 福井和雄

水野 孝 野村温宏 野本 明

宮田敬明

末吉邦康 水野正己

・仏教(宗教)章獲得者 宮田敬明

・金矢章 親友等はほとんどのスカウトが獲得している。

## 団委員会

小川委員長と十一名の委員とで構成し、会合を通じて金銭・精神面での援助をしている。

# 本 団 組 織 図

38年6月現在

